

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375601016		
法人名	社会福祉法人 嘉祥福祉会		
事業所名	グループホームあま恵寿荘		
所在地	愛知県あま市二ツ寺西高須賀2番地		
自己評価作成日	平成26年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年 2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgyosyoCd=2375601016-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgyosyoCd=2375601016-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に生活の中心となるのは利用者であり、その生活の補助をするのが職員であることを忘れずに、自発的に行動ができ、自分の想いを伝えやすい環境作りを努めている。家族との関係も大切に、面会時にはささいなことでも利用者の日常について話をし信頼関係を築いている。また地域へグループホームという場がどんなところであるのかを知ってもらうためのきかっけとして、地域の福祉まつりへの作品の展示を行い今年で3回目となり、社会福祉協議会などの繋がりもできている。また地域の教会への参加や消防署や地域の方と一緒に防災訓練を行うなどし、運営方針の中にもある「地域に開かれた施設」を目指している。その他にも複合施設であるため、ホームの中だけのサービスに限らず、他部署と連携して色々な行事をしたり、ホームでの入浴が難しくなった時に併設施設の特殊浴の使用をするなど、柔軟なサービスを行うことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の要請を受け災害時の地域弱者の避難場所として登録し、避難者の飲食の備蓄も整え行政、地域と協力する関係を築いている。避難場所の活用のほか、100人収容可能な多目的ホールや会議室の地域活用について行政も交え検討し、更に利用者、家族、地域の交流する場所となるよう考えている。  
ホームの職員は長くホームに勤務し、互いに信頼関係を築いている。利用者の暮らしを支えるために、一人ひとりの熱意や強さを力に変え、チームケアで利用者の自立性を大切にしながら利用者本意の介護を展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針の中にもあるように地域に開かれた施設を目指し、できる限り以前の生活からかけ離れたものにならないよう努めている。常にその人らしさを大切にし個別対応に心がけている。	理念を踏まえ管理者、職員が一丸となって利用者の自主性を大切に日々支援している。職員間の活発な話し合いを重ね、地域や家族と関わり力を注ぎ、利用者の普通の暮らしの継続に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉祭りに作品展示を行い、地域の方々へ施設を知ってもらえるよう努めている。また、地域の敬老会への参加や小中学生の体験学習や慰問での交流を図ったりしている。	3年連続で地域の福祉祭りに利用者のちぎり絵や貼り絵の作品を出品し、ホームの認知向上、交流に努めている。また、暮らした地域の敬老会に参加したり、小・中学校の生徒の受入れを行っている。	地域への取組みは毎年少しずつ変化があり、努力を重ねている。継続を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年福祉まつりでは地域包括支援センターのブースに作品を置かせてもらい、グループホームでの取り組みを地域の方々にも知ってもらえる機会を持つよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議の際に行事について報告を行い、家族や役所の方々から意見をもらい取り入れている。また必ず会議後には利用者との交流の機会を持ってもらうように企画している。	家族、地域、行政の参加する会議を年6回開催している。会議は外部評価の結果公表、災害避難訓練の報告に加え利用者も参加し茶話会も設けている。参加者が互いに理解し意見交換のできるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から何かあればすぐに相談をし、連絡を密にするようにしている。運営推進会議には毎回高齢福祉課や地域包括支援センターの職員に出席してもらい情報交換も行っている。	設立当初から行政と相談し、地域に寄与するよう連携関係を築いている。法人を地域の社会資源として活用できるように行政と共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年必ず施設全体として身体拘束についての内部研修を行い、また、毎月1回は各部署が集まり身体拘束の事例について話し合っている。新聞記事等を取り上げ、職員への意識づけもやっている。玄関の施錠については職員数等の時間によって防犯上施錠していることもある。	法人内に委員会を設け、拘束防止について内部研修を行い、職員のスキルアップを図っている。安全確保から拘束が必要な場合は、家族同意の上委員会に諮り期限を定めるなど規定に沿った対処をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で内部研修を行い、高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、その都度新聞記事等で話し合い意識づけを行っている。また、日頃から職員同士お互いに利用者への声掛けの仕方など気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で成年後見制度について学ぶ機会は持っているが、職場の中で実際にそのような制度の活用があまり身近に感じておらず職員全員が理解するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書について口頭で説明を行い、必ず疑問や不安な部分がないか尋ね、施設について理解・納得してもらっている。また変更等があればその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族の意見や要望について聞き、民生委員や役所の方へ知ってもらう機会は設けている。また利用者には運営推進会議の際一緒におやつを食べてもらい、会話の中で外部者へ気持ちを伝えられるようにしている。	毎月、利用者個別の情報をホーム便りとして家族に送っている。また、電話で細やかに利用者の様子を伝えている。家族の訪問時は全職員が意見の収集に努め、送りノートや日誌に記録し共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や毎日のミーティングやカンファレンス等でその都度運営に関して意見を言える機会を設けている。またできる限り管理者は現場に入り職員からの意見を反映できるよう努めている。	管理者は必要に応じ、上長である施設長にホームの課題や職員の意見を相談し、組織として公正に判断する仕組みを設けている。また、毎月職員個別に施設長面談を実施し、職員意見の収集、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り個々の得意分野を生かした仕事の割り振りを行っている。また年に2回人事考査を行い、いずれは給与にも反映できるように準備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体会議の中で内部研修の時間を設けており、各委員会の中でも研修を設けたりしている。また経験年数ごとの研修も行い、一人一人の力量にあったものを考えて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して同業者との交流を図って意見交換をしたりしている。また毎年市内のグループホームの管理者が集まり役所の方と一緒に連絡会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活のペースを早く把握できるようケース記録を細かく記入し、情報共有を行う。また担当者になった職員を中心に本人がホームの一員として生活できるような役割を早く見つけられるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約の際にも何かホームの生活の中で不安に思っている事や気になっていることがないか聞き、また面会時には必ず声をかけ一日の様子を伝えて早く信頼関係が築けるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族には入所時にこれまでの生活歴等を聞き、どんな生活を本人が求めているのかを早く把握できるように努めている。また、本人の状態によっては他部署への相談・連携をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り利用者一人一人がホームの一員として役割をもって、助け合って生活できるように支援している。何もかも職員がすぐ行ってしまわず利用者何ができるかを見極めながら介護を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や外出支援など家族の方にも行ってもらえる部分は出来る限りお願いしている。また月に1回通信の中で日頃の生活について伝え、面会をお願いをするなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々にそれぞれ馴染みの場所へ行ったりなどは行っていないが、地域の行事へ参加することで知り合いの方に会う機会ができたり週1回施設内で喫茶があり、その際にケアハウスやデイサービスの馴染みの方と会話を楽しんでいる方もみえる。	マッサージの仕事をしてきた利用者は、職員を客と見立て腕を振るっている。会社員として活躍した男性は今もホーム内で家事などの役割を担っている。また、知人やホームの建物内の他施設の顔見知りの訪問を受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が増えるように席を変えたり、「おはよう」や「おやすみ」だけでも会話が交わせるよう促すなどしている。但しあまり職員が過剰に介入しないようにも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設へ移った利用者の方にはなるべく声を掛けたり、その施設の職員と連携しながら相談にも応じている。退所時には必ずいつでも何かあれば相談に応じることを家族にも伝え支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族によりこれまでの生活を聞いたり日々の会話の中から情報を得てできる限り利用者の望んだ生活に近づけるよう検討している。また言葉だけでなく表情の変化にも日々気をつけるようにしている。	入居前に生活歴や暮らしぶりを利用者、家族から聴き取っている。これらをホームの指定用紙「ケース記録」にまとめ、職員は利用者の思いや意向を把握するヒントとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際には家族やケアマネージャーから今までの生活の過ごし方を聞き、デイサービスやショートステイ等を利用していた方には関係職員より情報が得られるよう家族の方をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には時系列にて利用者の状態を記録し、一日の生活パターンについて現状把握に努めている。またホームの中で役割を何か見つけられるよう本人の有する力の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族へは現状について伝え、その中で家族は何を望まれているか確認しケアプランへとできる限り反映するようにしている。また1ヵ月ごとに職員間で見直しを行い介護計画を作成している。	利用者、家族の意見を確認しケアプランは3ヶ月を基本に見直しを行っている。また、状態変化時は都度見直しをしている。作成したケアプランは毎月職員の検証を行い、次のプランに繋がる話し合いを重ねている。	掲んでいる利用者の思いや意向が介護計画に反映されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに時系列でケース記録の記入を行い、一人の職員に限らずその日に携わった職員全員が気づいたことやケアプランの実施状況等を記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設の中にあるホームであるため利用者の状態に応じたサービス提供が行われている。例えばホームでの入浴が難しくなった際に併設施設の座浴機を使用させてもらったり、併設施設Nsへ日々の体調の相談も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方を慰問で呼んだり、慰問以外でも行事の際に利用者の付添い介助等の協力をしてもらうなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には必ずかかりつけ医の希望は聞き対応している。現在の利用者の方はすべて協力病院の主治医であるため、日頃から何かあればすぐに相談でき受診もスムーズである。月2回往診も行っている。	現在は利用者、家族の希望を確認のうえ協力医である系列の病院を全利用者のかかりつけ医としている。他科受診は家族同行とし、必要のある場合は利用者の情報を託し円滑な受診となるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から何かあればすぐに併設施設Nsに報告・相談し、すぐ協力してもらえる環境にはある。Nsも利用者の体調に日頃から気にかけているため、急変時にはすぐに対応・協力してもらえる関係づくりができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はほとんど協力病院であることもあり、日頃から情報交換や相談は行っており関係づくりは行っている。また、それ以外の病院でも必ずケースワーカーとこまめに連絡・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必ず入所時に重度化した時や終末期のあり方、急変時の対応について今現在の家族の意向を聞いている。また、その都度状態が変わる際には意向について再度聞き、職員間や主治医と情報共有している。	入居時のにホームができることを家族に説明している。医療行為が必要となった場合は、適切な他施設の移動を支援している。また、家族の希望に沿えるよう医師と連携し話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での内部研修で行っているが災害時等の際の応急処置についてはまだまだ研修の機会をたくさん設ける必要があるように感じる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体にて昼夜それぞれの想定で避難訓練や消火訓練、通報訓練等を行っている。また年に1回は消防署と合同で避難訓練を行い、今年は地域の方々にも参加し避難誘導を手伝ってもらう等した。	年1回消防署の指導の下、地域住民と共に避難訓練を実施している。また、法人内に防災委員会を設置し、救急救命など毎月テーマを決め災害訓練を実施しており災害に対する意識は高い。	災害対策は刻々と変化しており、リビングや居室など細部の再点検を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方であることを忘れずに否定的な言葉や制止するような言葉かけにならないよう気をつけている。また居室へ入る際にはノックをしたり声をかけるなどプライバシーに気を付け介護している。	職員は利用者の人格を尊重し、優しい笑顔を心がけ接している。呼称は利用者の好みや反応を見てその人に合った呼びかけをしている。また、利用者の誇りを大切に支援は必ず利用者の了解をとり実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず利用者の方が何をしたいのか本人の意思確認を必ず行い、それが難しい方には家族へ聞いたり介助の際の声掛けに対する表情等で本人の気持ちを汲み取れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によってや時間帯によっては職員配置上、職員の都合になってしまうことがあるが、できる限りは本人のペースに合わせて声掛け・介助を行っている。「待つ」ことを大切に日頃より気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や就寝時にできる限り鏡をみてもらうことを意識し、身だしなみを整えてもらう。また選べる方には着替えの衣類を選んでもらうなどしてもらっている。行事の際には化粧をされる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日の際には本人の好きな食べ物を提供したり季節を感じられるようなものを提供できるよう努めている。また食事の準備も野菜を切ったり皿洗い等を行える方には一緒に手伝ってもらっている。	配達業者のメニュー付の食材を利用し、手作りの料理を提供している。アレルギーのある利用者は、個別対応で安全確保に努めている。また、利用者の手伝いを自立の機会と捉え、皿洗いなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックし、水分についても少ない方は水分チェック表をつくり記入し職員全員が把握できるようにしている。またなかなか水分が摂れない方にはジュースのゼリーを作って食べてもらうなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には本人にまかせているが磨き残しがある場合洗口液にてうがいをしてもらったり義歯洗浄のみ職員が行うなどしている。介助の必要な方には毎食介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りは排泄物品は使用しないようこまめにトイレ誘導・介助を行っている。ポータブルトイレの使用の方も日中は出来る限りトイレに行ってもらおうよう介助している。	排泄記録を取り、職員の声かけや誘導が適切なタイミングとなるよう活かしている。また、利用者の身体の状態を見極め、安全、安心を確保し、ポータブルトイレを活用するなど失禁のない快適な排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をできるだけ多く摂ってもらうよう促したり、便秘の方には起床時・就寝時に冷水を飲んでもらうなどしている。また歩行する時間を増やすなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は職員の勤務形態の都合上行えていないが日中に関しては曜日や時間帯決めず毎日入浴できるよう準備している。本人の希望があれば毎日でも入浴行うようにしている。	2日おきの入浴としているが、希望者は毎日の入浴も可能である。個浴対応とし、必要な場合は職員2名の体制で湯船の移譲を実施している。入浴の苦手な利用者は衛生面を考慮しながら意向を尊重して実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度メリハリはもってもらおうよう食事やお茶、おやつ時間は決めてはいるが必ずしもその時間ではなく体調等に応じて対応している。また照明や室温管理等を利用者に合わせて気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度薬が追加された際は用法・用量・副作用について、調べたり主治医に尋ね申し送りを行っている。また服薬後の経過についても主治医に報告し、また場合によっては併設施設Nsへ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭菜園や居室での花の世話をしてもらったり、本人が得意としていたマッサージを行ってもらったり、以前の生活歴から活かした役割を行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現状はなかなか行えていないが、買い物に行きたいという本人の要望沿った外出や家族と近くの公園に散歩に行ってもらったりしている。行事としての花見や敬老会の際には家族への協力をお願いするなどしている。	敷地内の菜園の世話や広い建物の回廊を利用した歩行訓練、近くの公園に散歩に出かけている。買い物、敬老会、外食、花見外出を実施し、利用者の生活にメリハリをつけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が可能な方にはできる限り所持してもらい、自販機で飲み物を買ったり、売店でお菓子を買う方もみえる。またできる限り外出時には支払いを本人にってもらうなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう配慮し、年に何回か遠方の知り合いの方と手紙のやり取りをしている方もみえる。また併設施設内に公衆電話もあるのでいつでも電話をかけられる環境はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビングには皆で作成した季節を感じる作品を置いたり、行事の写真を飾ったりしている。また、夏はゴーヤをグリーンカーテンも兼ねて育て日差しを防ぐとともに成長を楽しんでいる。また、大きな音をできるだけたてないよう動作等気をつけている。	職員と共に掃除を手伝う利用者があり、清潔な空間を保つ一翼を担っている。リビングの一面は常に見守り可能なようにオープンキッチンを設けている。利用者の食事のテーブル席は、相性や安全を考え配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を取る場所以外にもソファを置き、そこでうたた寝している利用者さんもいる。また、食事の際の席については出来る限り気の合った人同士が同じテーブルになるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた家具を持ちこまれている利用者も何人かみえ、家族や本人には入所時に家具の持ち込み可能なことを伝えている。また、家具の置場もなるべく移動のしやすさを考えて置いている。	掃き出しの大きな窓を配置し十分な外気と採光を取り入れることが出来る。利用者、家族の希望の家具やテレビ、家族の写真を持ち込み、各居室設置の洗面台に歯ブラシセットを置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具の配置については本人ができる限り移動しやすく配置したり、居室が分かりづらい人には目印をつけて分かりやすくするなど工夫している。		